

鶴見区医師会在宅部門

つるみ在宅ケアネットワーク 第11回公開勉強会報告書

日時 平成27年11月14日(土) 13:30~16:30

場所 鶴見公会堂

13:30 開会の辞 鶴見区医師会会長 原 直

13:35 1部 基調講演 『災害時地域がどう動くか』

講師：東京保健医療大学東が丘立川看護学部 石井 美恵子先生



- ・東日本大震災の教訓
- ・災害医療、地域保健体制について
- ・本質的な対応策に地域で取り組む必要性
- ・インシデントコマンドシステムに基づく災害マニュアルについて
- ・クラスターアプローチについて



14:55 2部 シンポジウム ～地域力を高めよう～

鶴見区福祉保健センター長 大貫 義幸氏

- ・東日本大震災時の横浜市での地震被害
- ・横浜市の防災計画の体系
- ・鶴見区防災計画



済生会横浜市東部病院 救急科部長 山崎 元靖先生

- ・災害拠点病院の機能
- ・災害時の実際
- ・地域連携の必要性
- ・地域と共に活動



鶴見循環器クリニック 院長 山本 慎吾先生

- ・防災計画での医療救護体制
- ・医師会の防災対策への取り組み
- ・鶴見医療救護隊活動訓練
- ・紙上訓練（避難所編）



鶴見区医師会在宅部門 総括責任者 栗原 美穂子

- ・鶴見区在宅医療連携拠点 さわやか相談室
- ・つるみ在宅ケアネットワーク 連携ノート



16:00 ディスカッション



16:20 まとめ



いざ災害が起こった時、医療機関は拠点病院、一般病院、診療所があり、市民は自宅か避難所で過ごすこととなる。治療はどこまでは決まっていないが市民が困らないように検討していく。

16:25 閉会の辞

鶴見区医師会副会長 芝山 幸久



出席者 165名

医師 13名

薬剤師 3名

行政 17名

病院連携室 11名

地域包括支援センター6名

サービス事業者・その他 29名

一般 56名

スタッフ 27名